

人間の尊厳 教訓生かす

「戦争と医の倫理」の検証を進める会が設立大会

731部隊や戦地で行った「人体実験」等の非人道的行為を検証し、その教訓を今後の医学・医療の発展、「医の倫理」の向上に役立てようと、「戦争と医の倫理」の検証を進める会設立大会が9月27日、東京大学医学部会議室で開かれ、設立趣意書や顧問・世話人会体制を決めた。また、常石敬一（神奈川県川大教授）による記念講演・「15年戦争と『医学犯罪』」が行われた。大会には、医師・医学者、看護師などの医療関係者、医学生、生命倫理や歴史学研究者、弁護士など約1000人が参加した。

海外からもメッセージ

設立大会では、来賓として全日本医学生自治会連合の村山恒峻委員長が挨拶。賛同・激励のメッセージが、米国ハーバード大学・タニエル・ウィクラーク教授、中国731

部隊罪証陳列館・金成民館長、中国黒竜江省社会科学院・曲偉院長、作家よび事務局を保留連に置くことも提案とおり確認した。

常石敬一（神奈川県川大教授）が「15年戦争と『医学犯罪』」と題して記念講演を行い、旧日本軍の資料などから当時の人体実験

等が罪の意識もないうまま行われていた事実を示すと同時に、これからの医の倫理向上のためにも、未公開資料を含む史実の検証から教訓を生かす重要性を訴えた。

真摯な検証を

設立趣意書では、「これからの医学・医療の発展には、人間の尊厳や人権を基本とすることが何より大切。そのためには、日本の医学者・医師がかつて戦争中に731部隊で行った『人体実験』など非人道的行為を史実にそって検証し、その教訓を生かすことが欠かせない」などと述べた。

また、



「戦争と医の倫理」の検証を進める会設立大会の模様
9月27日・東京大学医学部会議室

「戦争への加担の歴史を検証することは、国民の各層で行われるべきものだが、医学者・医療人の姿勢が人命に直結するだけに、医学界・医療界が自ら真摯な検証を行い、それを国民に発信することが大切」などと述べている。

森村氏らメッセージ

作家の森村氏はメッセージの中で「医道の倫理の再確認は、あらゆる戦争を拒否し、人間の尊厳と人権の保障につながる。医師が医道の本分を見失ったときは、人類の未来はない。人命の救済とは、それほど重い意味を持っている」と記した。また、日野原重明（聖路国際病院理事長）は「過ちを2度と起こさないためには、過去の戦争によって行った生命にとっての非倫理的行動の実体をまづ把握し、それが2度とおこらない平和運動に参加すべきものと考えたい」とした。